万葉歴史館は、「万葉集」と万葉の時代を探究するため、広く関係資料・文献・情報等の収集、整理、調査、研究を行い、その成果を公開するとともに、展示、出版や教育普及などの諸活動を通して、次のような機能を果たしています。

■展示機能

・「万葉集」に親しむとともに、様々な知識が得られます。

■教育普及機能

・地域住民を対象とした館内活動（学習会・講演会）や臨地学習会などの屋外活動を行っています。
・各種出版物を編集し、発行しています。

■調査・研究・情報収集機能

・「万葉集」の専門的研究をすすめ、資料・文献などを収集し、保存しています。
・「万葉集」の研究や情報収集の場を提供します。
・図書や館収蔵資料を公開し、閲覧できます。

■観光・娯楽機能

・万葉の自然とふれあう、やすらぎとうるおいの場を創出しています。
・周辺観光の拠点施設となっています。

交通のご案内

■あいの風とやま鉄道高岡駅より
●バス／西回り伏木循環線・東回り循環線
いずれも伏木一宮下車・徒歩7分
●JR氷見線／伏木駅下車・徒歩25分
■能越自動車道／高岡北ICより車で20分

高岡市万葉歴史館"万葉を愛する会" **会員募集**
■年会費2,000円

高岡市万葉歴史館
〒933-0116 富山県高岡市伏木一宮1丁目11番11号
TEL.0766-44-5511　FAX.0766-44-7335
E-mail manreki@office.city.takaoka.toyama.jp
【ホームページ】http://www.manreki.com
（平成27年7月作成）

利用のご案内

・開館時間／4月1日～10月31日
午前9時より午後6時まで
（入館は5時15分まで）
11月1日～3月31日
午前9時より午後5時まで
（入館は4時15分まで）

・休 館 日／毎週火曜日
（休日にあたる時はその翌日）
年末年始
（12月29日～1月3日）

・観 覧 料

	個 人	団体（20人以上）
一 般	210円	160円
小・中学生	無 料	

※満65歳以上の一般個人の方は、160円
※特別企画展を行う場合に、別料金とする場合があります。

高岡市万葉歴史館

TAKAOKA MANYO HISTORICAL MUSEUM

「万葉集」の代表的歌人であり編者ともされる大伴家持は、今から約1260年前、越中国守としてこの高岡の地に5年間在任しました。その間、「万葉集」全巻の収載歌約4500首のうち、家持によって越中で詠まれた歌は220余首であり、さらにゆかりのある歌を加えれば337首にものぼります。この地の美しい風物を詩情豊かに詠んだこれらの歌は、"越中万葉"として、いまなお光彩を放っています。
このようなことから高岡市は、大伴家持を通して「万葉集」の全国有数の故地のひとつとなっています。

陶板画「高燿る藤原京の大殿」
原画　平山 郁夫

公益財団法人高岡市民文化振興事業団

万葉をはぐくんだ風土

雪と風のきびしい越中の気候
花々の咲ききそう美しい自然
あたたかい人々の心が
家持の歌をはぐくんだ。
しなざかる越
あまざかる鄙
その風土が各地で
万葉の歌と人をそだてた。

雄神川　紅にほふ　少女らし
葦附採ると　瀬に立たすらし

ものの ふの　八十をとめらが　汲み乱ふ
寺井の上の　堅香子の花

常設展示

テーマ

ふるさとの万葉

■万葉集とは

万葉集は、奈良時代末（770～782年）ごろに大伴家持が最終的にまとめたと推定されている全20巻からなる現存最古の歌集です。収められている歌は、一般には『国歌大観』の数え方に従って4516首と数えています。

雄略天皇（巻1･1）や聖徳太子（巻3･415）が詠んだと伝承されている歌などもありますが、実際には舒明天皇の歌（巻1･2）にはじまり、奈良時代の天平宝字３年（759年）の大伴家持の歌（巻20･4516）までの約130年間を中心とする、天皇・皇后から名もなき人々の歌までもがおさめられた一大歌集です。

■越中万葉とは

この万葉集の歌4516首のうち、越中で詠まれたか、あるいは越中にかかわって歌われた歌をとくに「越中万葉」と呼んでいます。家持が越中国守(現在の県知事相当の職)として赴任してきた天平18年（746年）から、家持が少納言として越中を離れる天平勝宝３年（751年）までの５年間の歌が収められた巻17･3927～巻19･4256を中心に、巻16の7首（3878～3884）を加えて337首を数えます。

■メディアボックス

越中の風物を愛し、歌にした家持。その家持が好んで歌に詠んだ花や鳥、それらを歌と対比させながら、最新の映像装置で楽しく鑑賞することができます。

■四季のシンボル造形

越中万葉を育んだ自然を、四季の移り変わりの中で象徴的にとらえ、優れた音響効果と映像効果によって表現します。

越中万葉の世界

『玉くしげ　二上山に　鳴く鳥の
声の恋しき　時は来にけり』

（巻17･3987　大伴家持）

この歌は、私たちの耳に親しい万葉の秀歌です。越中における家持歌は、その自然詠に大きな特色があるといえましょう。二上山の賦･布勢の水海に遊覧する賦･立山の賦をはじめとする風物詩。そして渋谿の崎・奈呉の海・三島野・麻都太江の浜・婦負の野・雄神川・射水川・垂姫の浦・石瀬野などの地名を詠み込んだ諸作は、越中万葉に新鮮な味わいを与えます。

また、自然詠の中に数えるべきものとして、「あゆの風」「あしつき」「ほよ」「つまま」「かたかご」なども、越中万葉独自の題材といってよいでしょう。

なお、このほか家持歌には郷愁の歌、無常感を詠じた歌、妻恋いの思いを歌ったものなど、注目に値する作品が数多くあります。

夏

敷地・建物の規模

- 建築年月／平成2年10月
- 敷地面積／10,405.94㎡
- 建物構造／鉄骨･鉄筋コンクリート造平屋建（一部地階）
- 建築面積／1,837.92㎡
- 建築延床面積／2,486.26㎡（地階 620㎡　1階 1,837.92㎡　2階 28.34㎡）

四季の庭

万葉集ゆかりの草花や樹木が、それぞれの四季を趣き深く彩ります。

冬

秋

春

企画展示

越中国と万葉集（えっちゅうのくにとまんようしゅう）

大伴家持が越中国守となって北陸の地に来たことにより「越中万葉」は生まれました。

家持は、越中国の古代を『万葉集』に書き残しました。そこには、古代越中の風土や四季の姿が詳細に描かれています。その越中国は、時を経て加賀藩前田家のもと、万葉故地の顕彰･保存や研究に多大な貢献を成したのです。企画展示では、越中国と万葉集の関わりをご紹介します。

●グラフィックパネル

「はじめに」
「古代の越中」
「越中国守大伴家持Ⅰ･Ⅱ」
「越中の四季　春･夏･秋･冬」
「前田家と万葉集」
「越中万葉研究の歩み」
「近代歌人の越中万葉」
「古代の越中国と越中万葉の年表」

●主な展示品

越中国印
越中国府台地ジオラマ
越中国守大伴家持の朝服（復元品）
越中国開田図などの原寸大複製
難波津木簡（複製品）
東大寺開田図（複製品）
鳥毛立女屏風（正倉院宝物　複製品）
ホトトギス（木彫）

●『万葉集』古写本コーナー

桂本万葉集（複製）
金沢本万葉集（複製）
万葉集断簡など